

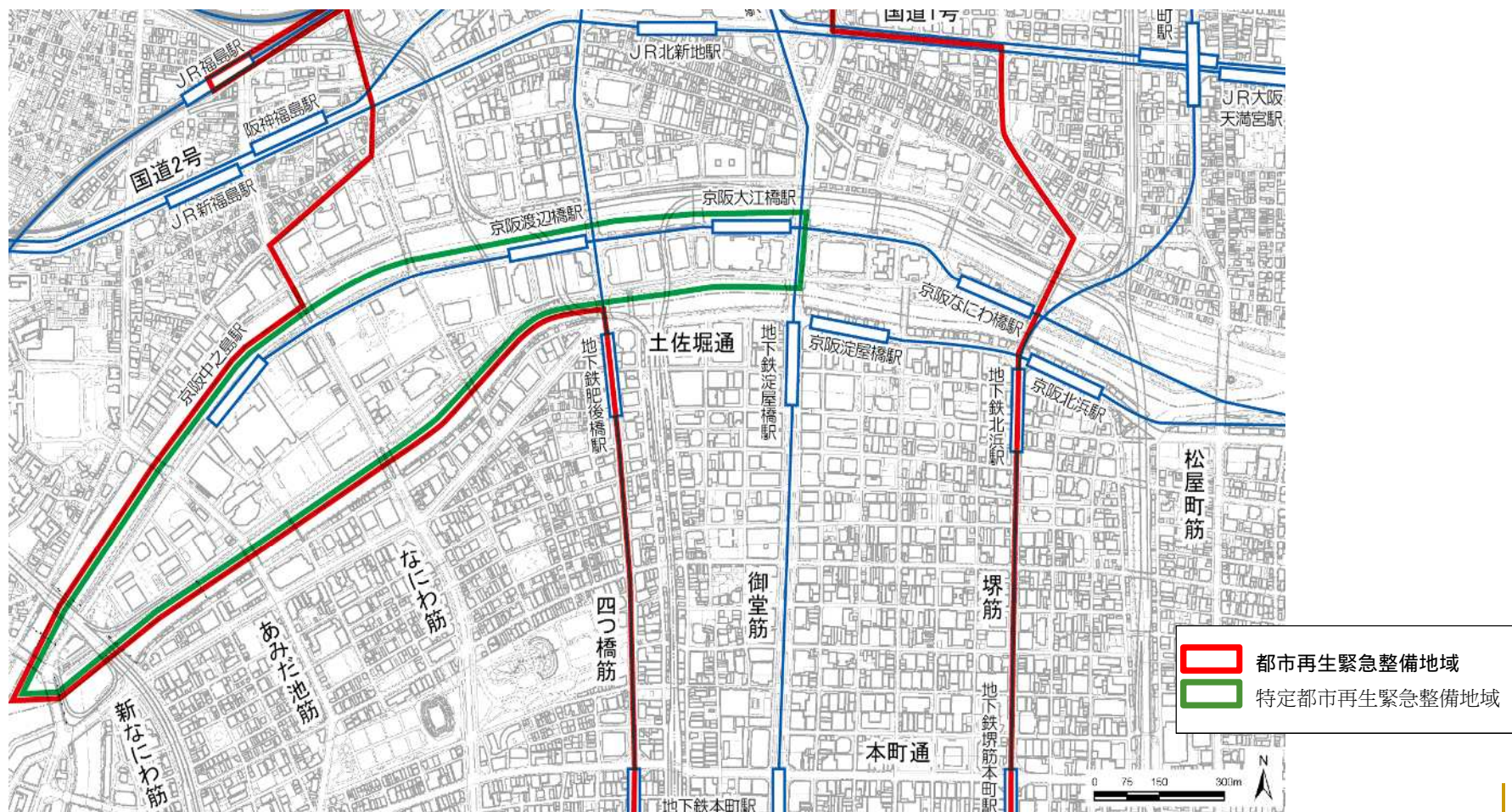
都市再生緊急整備地域の指定

都市再生緊急整備地域の指定（H14.7）、特定都市再生緊急整備地域の指定（H27.7）

- ・大阪駅周辺、中之島、御堂筋周辺において、大阪、関西のみならず国土の発展、成長をけん引する国際競争力を備えた拠点を形成
- ・業務・文化・MICE機能の集積に加え、新美術館の整備を核に、未利用地の土地利用転換を図り、ハイエンド人材の育成に資する大学等の高等教育施設を導入するなど、これらが連携・調和し相乗効果を発揮するまちづくりを実現
- ・都市型MICE機能、国際学校、レジデンス等の導入など国際ビジネスサポート機能の拡充につながる都市開発を促進し、国際的な業務・文化・学術・交流拠点を形成

都市再生緊急整備協議会中之島地域部会の設置（H28.3.18）

- ・官民において、特定都市再生緊急整備地域の整備計画、都市再生安全確保計画を策定（H28.6.24）



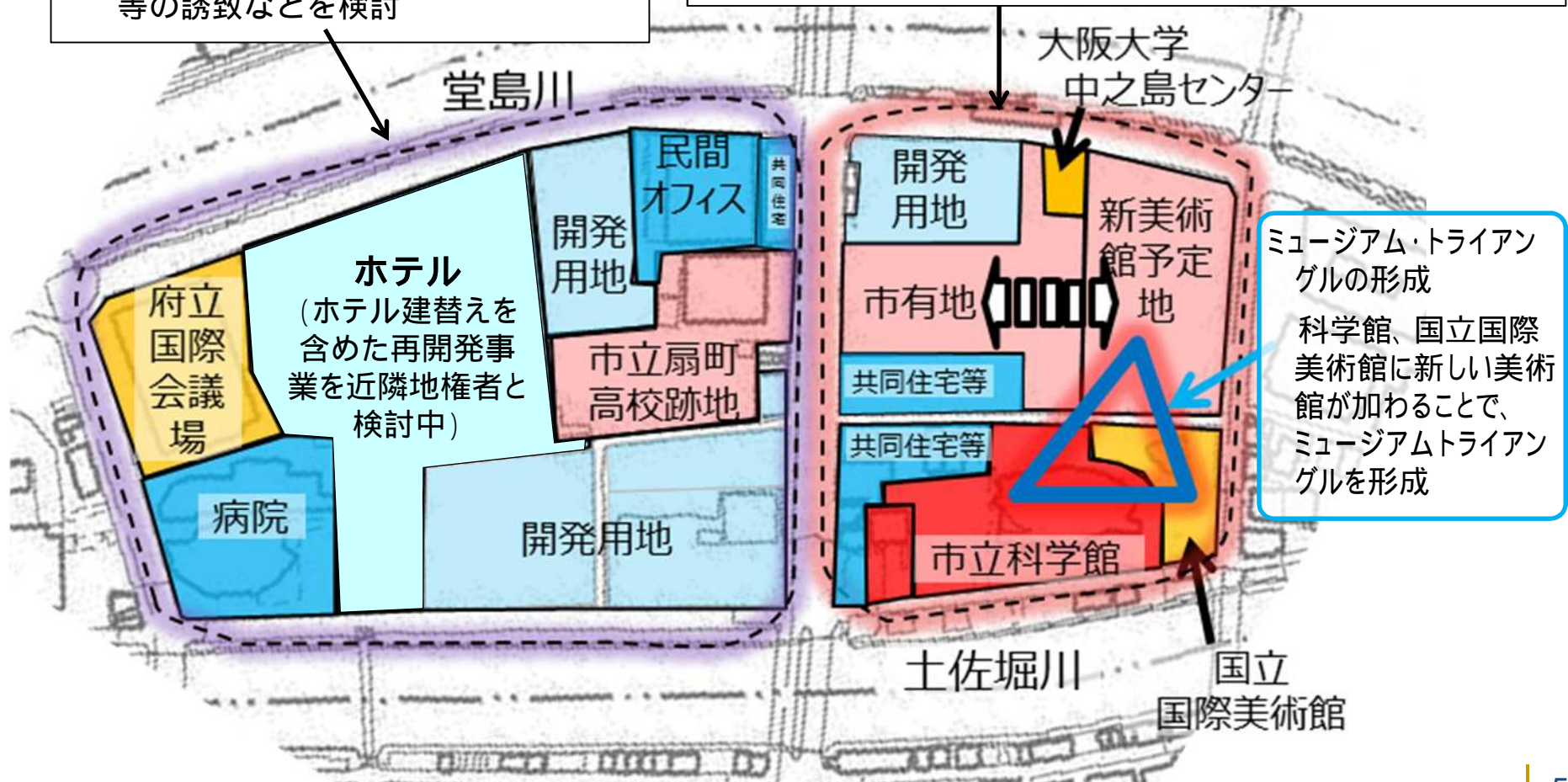
中之島4丁目・5丁目のまちづくり

中之島5丁目

- ・大阪の国際交流の拠点形成へ
- ・MICE機能の拡充、国際学校等の誘致などを検討

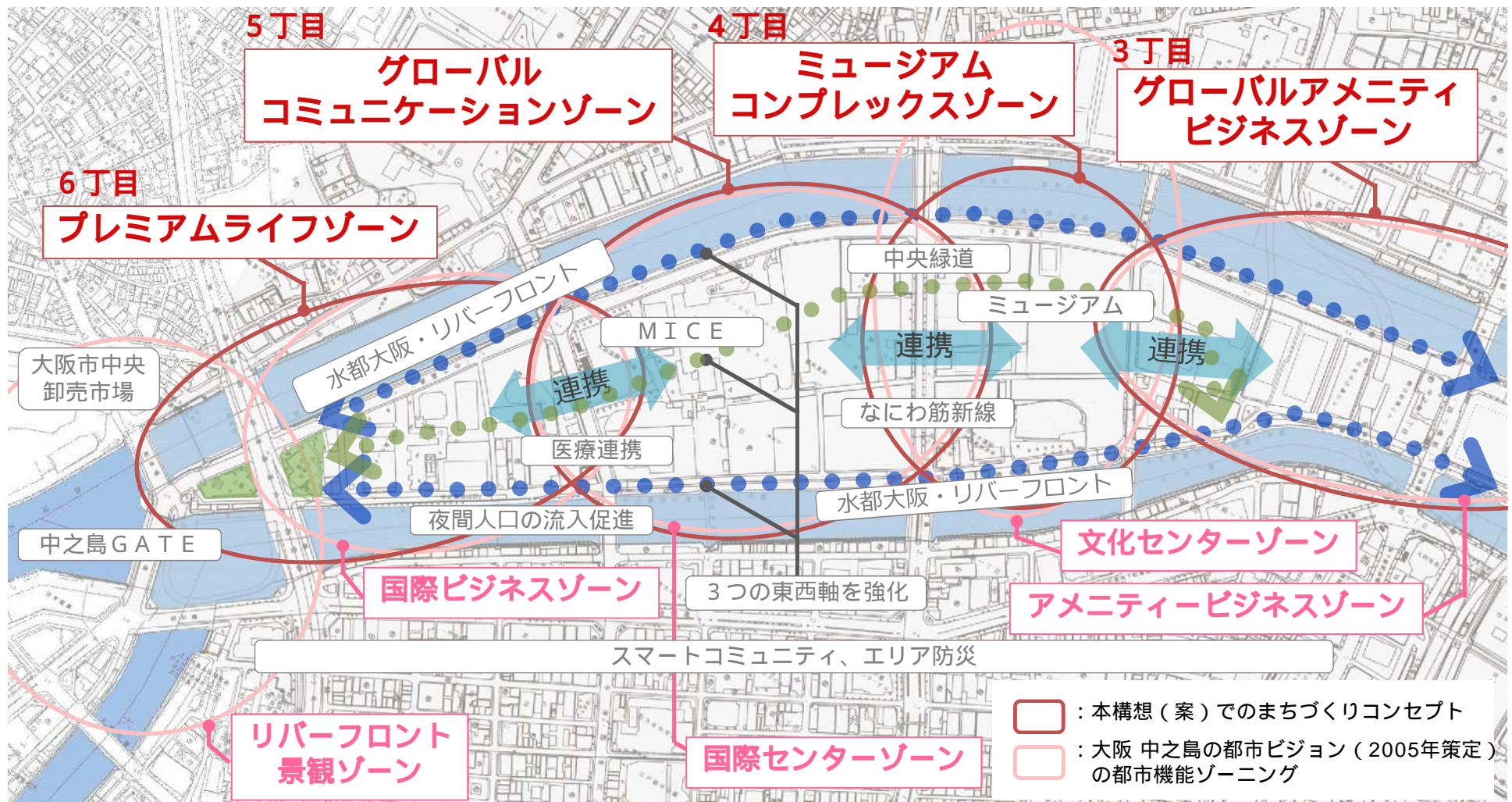
中之島4丁目

- ・大阪の文化・芸術・学術の拠点へ
- ・2021年度開館を目標とする新しい美術館と、市立科学館、国立国際美術館との連携により国内有数のミュージアムゾーンをめざす
- ・新美術館隣接市有地で、美術館と連携・調和する大学等の誘致を検討



中之島まちづくり構想（中之島まちみらい協議会で策定/H25年）

- 広域での連携とともに、中之島地区内で多様な機能の集積をはかり、機能間の連携シナジーで、地区一帯となって「創発する中之島」をめざす



中之島4丁目 新しい美術館の整備について

新しい美術館のコンセプト

佐伯祐三や吉原治良に代表される大阪が育んだ作家の作品を中心とした第一級のコレクションを活かし、国内トップクラスのミュージアムをめざす。

「大阪と世界の近現代美術」をテーマとしたミュージアムとして、市立美術館や東洋陶磁美術館にはない、新たな魅力を創造する。

歴史的にも文化的にも豊かな蓄積をもつ中之島を拠点として、文化の振興や都市の魅力向上に貢献する。

民間の知恵を最大限活用しながら、顧客目線を重視し利用者サービスに優れたミュージアムとする。

整備予定地

施設整備の概要（案） 「新美術館整備方針」（平成26年度9月策定）より抜粋



項目		備考
【延床面積】		-
内訳	コレクション展示室	2,200m ² 日本近代 / 西洋近代 / デザイン / 現代 / テーマ展示 (うち500㎡は企画展示室としても利用可能)
	企画展示室	1,200m ² 大型の巡回展にも対応できる面積を確保 (1,200㎡もしくは1,700㎡での利用が可能)
	コミュニケーション	2,100m ² パッサージュ、講堂、ワークショップ室等の オープンエリア
	保存・研究	2,500m ² 収蔵庫、一時保管庫、調査研究室等
	管理・共用	7,000m ² 管理部分(事務室、機械室、倉庫等) 共用部分(展示ホール、廊下、階段等)

(駐車場及びサービス施設は含まず)

整備手法・スケジュール

施設整備は公共事業で実施した上で、学芸部門をのぞく美術館やサービス施設の運営について、PFI事業で実施
2016年度から基本設計業務に着手し、2021年度の開館をめざす